



かもめのジョナサン

この風変わりなカモメ、
ジョナサン・リヴィングストーン
にとって重要なのは、
食べることも飛ぶこと
それ自体だったのだ。

主人公のかもめ、ジョナサンが属する群れのほぼ全てのかもめ達は、腐ったパンくずをあさり漁船のおこぼれを追い回すといったように、食べる事が一番の関心事である。一方ジョナサンは骨と皮だけになるほどに「飛ぶことそのもの」を追求する。そして普通のかもめでは成しえない時速342kmでの飛行を実現するが、その努力もむなしくかもめの本分をおろそかにしたという理由で群れを追放されてしまう。その後も孤独に飛行術を学んだジョナサンは、ある日2羽の黄金に輝くかもめに迎えられ、空のかなたへと消えていく——

この作品は三部構成になっており、ジョナサンが元の世界を離れたところで第一部が終わる。そして同じような境地に至ったかもめたちと更なる高みを目指す第二部、群れへ戻り、飛行を通じてかもめの生きる道を後進へ伝えようとする第三部と続いていく。

天国とは、
場所ではない。時間でもない。
天国とはすなわち、
完全なる境地のことだ。

かもめの話と聞いて、単なるおとぎ話の類かと思われるかもしれない。しかし、飛ぶことに生涯をかけるジョナサン達のひたむきさのおかげで、この作品にはある種の厳格さが漂っている。中でも、第二部におけるジョナサンと師匠のチャンとのやりとりは哲学的ですらある。肉体の限界という究極的な壁に突き当たるジョナサンにチャンは諭す。「本来、自己とは無限のものだ」と。苦心の末、つ

いに壁を突き破った弟子に師匠は語りかける。「今度は他人を愛することを学べ」と。かくしてジョナサンの飛行技術は時空を超え、物語の盛り上がりも最高潮を迎える。ともすると説教臭さを感じがちなストーリーだが、このかもめたちの織りなすファンタジーにはそれを補ってあまりある魅力が備わっている。

群れの異端者となり、悩みを抱えながらも、ジョナサンは自らの信念を曲げずに生きていく。場の空気を読むことが過剰に重要視され息苦しくなるこの時代、彼の純粋な生き様に触れてみるのはいかがだろうか。(エース)



BOOK

リチャード・バック著
五木寛之訳
新潮文庫 / 定価500円



残った食パンが大変身！ 包丁もまな板もお鍋も使わない、常識破りの楽ちん料理を是非ご賞味ください。(water)

材料 (1個分)
食パン (6枚切り) 1枚
冷凍シューマイ 1個



- ① ラップの上に耳をとった食パンを乗せて、その中央に解凍したシューマイを乗せる。
- ② 食パンの縁に指で少し水をつけて、茶巾絞りの要領でラップで食パンごとシューマイを包む。
- ③ そのままレンジに入れて、500Wで50秒～1分加熱する。



応用編 — あんまんの作り方
次のようにレシピを変更すれば、あんまんを作ることができます。
・シューマイ1個→ようかん30g
・加熱時間500Wで50秒～1分
→500Wで30秒～40秒

はみだし
すてーじ

俺は人間をやめるぞー
⇒それならカモメになればいいんじゃないですか？

(工・1 田中角英)
(おれは時空を超越するッ！；編)